

2020年6月10日

関係各位

北里大学保健衛生専門学院
学院長 小幡文弥
(公印省略)

2019年度「学校関係者評価会議」評価結果について

北里大学保健衛生専門学院学校評価規程（以下、「規程」という。）第9条（学校関係者評価）に基づき、以下のとおり2019年度の学校関係者評価会議を開催いたしました。規程第14条（学校関係者評価の評価結果）に基づき、別添のとおり、報告書を作成しましたのでご確認ください。

この報告書は規程第17条（学校関係者評価結果の公表）の規定により、本学院ホームページ上に公開し、社会に広く公表するものとします。

また、学校関係者評価会議構成員の皆様には、公私ともにご多忙のところ、数多くの貴重なご意見、ご助言を賜り深謝いたします。本学院では本評価結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めて参ります。

記

1 会議概要：

当初、2020年6月上旬の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染拡大防止の観点から、書面による開催としました。

【開催期間：5月22日（関係書類発送）～6月8日（回答期限）】

(1) 意見聴取事項

項目別自己評価表〔専修学校における学校評価ガイドライン様式〕、学校法人事業業績報告書、各学科で実施する自己点検報告書、財務状況等に関する意見

(2) 回答方法

「回答書」に意見等を記入、捺印の上、6月8日（月）までに回答

(3) 送付書類

1) 評価対象書類

- ①2019年度項目別自己評価表〔専修学校における学校評価ガイドライン様式〕
- ②2019年度事業業績（本学院部分のみ抜粋）
- ③自己点検報告書（4学科分）
- ④財務状況に関する資料

2) 参考資料

- ①2019 年度事業計画（本学院部分のみ抜粋）
- ②2019 年度学院行事報告
- ③北里大学保健衛生専門学院学校評価規程

2 学校関係者会議構成員：

- (1) 南魚沼市総務部企画政策課長
- (2) 北里アパート組合長
- (3) 北里大学保健衛生専門学院同窓会長
- (4) 北里大学保健衛生専門学院 PPA 会長
- (5) 新潟県立小出高等学校長
- (6) 魚沼市立小出病院事務長

※任期：2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

3 評価結果：

2019 年度 項目別自己点検表（北里大学保健衛生専門学院）専修学校における学校評価ガイドライン様式：学校関係者評価会議での意見挿入版のとおり。

以 上

2019年度 項目別自己評価表（北里大学保健衛生専門学院）
〔専修学校における学校評価ガイドライン様式：学校関係者評価会議での意見挿入版〕

1. 学校の教育目標

北里大学保健衛生専門学院は、北里大学建学の精神及び生命科学領域の教育研究に則り、臨床検査技師、管理栄養士、看護師、保健師、臨床工学技士に関する専門教育を行い、必要な知識技術を教授するとともに、豊かな教養と人格を育み、科学技術の発達と文化の向上並びに地域の健康と福祉の増進に寄与する人材を育成する。

【臨床検査技師養成科】

臨床検査技師養成科は、医学検査を実践できる十分な基礎的知識と技術を修得し、各種現場での高度な内容に対応できる能力を養うとともに、医療人の一員としての人格、倫理観、使命感を持ち、他の医療職種の人たちとチームを組み活躍できる人材を養成する。

【管理栄養科】

管理栄養科は、豊かな人間性をそなえ、疾病の予防、回復、医療・福祉等に貢献でき、QOLの向上を目指して栄養の評価・判定に基づく的確な栄養補給、栄養教育、他領域との連携ができる管理栄養士の養成を目的とする。そのための教育研究上の目的は、①管理栄養士の資格を取得するために必要な知識・技能の習得、②栄養に関わる職業人としての倫理観の習得、③チーム医療の一員として必要な栄養管理や栄養指導等実践力の習得、④地域の特性を理解し、地域に貢献できる力を培うこととする。

【保健看護科】

保健看護科は、学祖北里柴三郎博士が一生を通じて顕現した生命の尊重と人間愛を基礎とする建学の精神に基づき、看護を志す人々がより豊かな知性と感性を追求し、個人及び集団に対し、それを取りまく環境を含めて総合的に働きかけ、人々のよりよい健康を実現することに貢献できる、看護師、保健師を養成する。

【臨床工学専攻科】

臨床工学専攻科は、医療機器が多様化する現場において、その変化に対応できる応用が可能な基礎知識を取得し、適切な判断ができる能力を養うとともに、医療人の一員として、患者さまに安心感を与えることのできる人格・倫理観・使命感を持ち、他の医療職種の人たちと協同してチーム医療の現場で活躍できる人材を養成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 志願者・入学者確保と入学定員厳守への取組
- (2) 国家試験合格率向上への取組（新卒者）
- (3) 就職率向上への取組
- (4) 低学年次生に対する教育の見直し及び学生支援体制の強化による退学率削減への取組
- (5) 教育の質の向上に向けた取組

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育の特色は明確か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①課題

学校の理念について、学校法人の理念、大学の理念に準じるものと考え、明文化はされていない。保護者への周知についても十分とは言えず、改善の余地がある。

②今後の改善方策

保護者への周知について、パンフレット・ホームページにより積極的に周知する。

③特記事項

将来構想については近年、法人本部を含めた様々な議論が行われているが、18歳人口の減少、人口減少・地方衰退といった社会情勢の中で、高等教育機関として新潟県や魚沼地域に貢献できる学校となるべく検討を進める。

④意見・助言

意見①

学校の理念目的等の評価結果（4. 適切）に対して、①課題欄のコメントは若干厳しいと感じました。

⑤質問

なし

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

学校運営については適切に行われている。

②今後の改善方策

複雑化する諸業務に対応すべくシステムの改修などを常に意識する。

③特記事項

なし

④意見・助言

なし

⑤質問

なし

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題

教員の研究、研修、自己研鑽のための措置が必ずしも十分とは言えない。

②今後の改善方策

学院主催のFD講習会等、研修の機会を増やす。

③特記事項

「職業実践専門課程」への申請は行っていないため、学院独自の制度として外部関係者の意見を取り入れてカリキュラム等の見直しは行われていないが、2020年度から実施する「学校関係者評価」で得られる外部者の意見を学校運営の参考にする。

④意見・助言

なし

⑤質問

なし

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
	4	3	2	1
・就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

2019年度において退学率が過去5年間で最高となった。

②今後の改善方策

退学率について、事業計画に上掲した「低学年次生に対する教育の見直し及び学生支援体制の強化による退学率削減への取組」に対する2018年度の効果検証と改善に加え、引き続き、①1・2年次講義内容の見直し、②学生相談室利用率の向上と相談コマ数増加、③北里大学健康管理センターとの連携の強化に取り組む。

③特記事項

国家試験合格率の向上について、2020年度から臨床検査技師養成科で「国家試験支援アプリ」を先行導入し、国家試験対策の一部として運用を開始する。

④意見・助言

意見①

退学率について、厳しい評価となっていますが、退学率5.7%は全国的に見ても高くはなく、目標とされている2%未満は、かなり高いハードルのような気がします。最近の経済状況を考えると、今後さらに退学する学生さんが多くなる予測もありますが、頑張ってくださいと思います。

意見②

2018年度に続き、2019年度も過去5年間で退学率が最高となっている。1・2年生の退学率が多いと思われるが、学生への相談や支援など、引き続き取組んで頂きたい。

⑤質問

なし

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

卒業生に対する支援が不十分である。

②今後の改善方策

同窓会組織との連携により、卒業生に対する支援の強化策を検討する。

③特記事項

学生相談に関する研修会を2019年8月に実施し、学生相談室と教職員の連携体制の強化を図り、学生支援を充実させる。

④意見・助言

なし

⑤質問

なし

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
	4	3	2	1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

機器備品の一部が経年劣化により動作不良に陥るようになってきている。今後の教育に影響を与えないように計画的に機器の入れ替えを行う必要がある。

②今後の改善方策

教育上必要な機械器具等について、計画的に更新を行う。

③特記事項

防災・減災について、防災委員会、自衛消防隊を整備して組織的に防災対策を行っている。定期的な防災訓練を実施するとともに、計画的な防災備蓄品の整備も進めている。

④意見・助言

なし

⑤質問

なし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

学生募集活動、入学者選抜は全て適正に実施されているものの、一部の学科において定員未充足が恒常化しつつある。

②今後の改善方策

地元密着型の学校を念頭に足場を固めつつ、北里大学の併設校であるメリットを最大限に活かした広範囲からの志願者増も図る。具体的には①入試制度の見直し、②学生募集活動の強化、③受験者の進路選択の重要な要素となる国家試験合格率と就職率の向上に取組む。

③特記事項

2020年度から開始される「高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象機関として認定された。この制度の対象となれる高等教育機関は一定水準以上の教育の質が必要であり、無償化の対象となる受験生に対しても訴求効果が期待できる。

④意見・助言

なし

⑤質問

質問①

18歳以下の人口減少、専門学校よりも大学への進学希望者、就職先の大卒者獲得、また、新たに十日町に看護学校が開設し、今後は更に厳しい状況が続くと予想される。恒常化した定員未充足学科の定員数削減などあるのでしょうか？

学院からの回答：

ご指摘のとおり、18歳人口の減少や競合他校の新設等の要因により、入学志願者の確保は厳しい状況が続いておりますが、教職員一丸となって質の高い教育を展開するとともに、広報活動も積極的に行って参ります。学院の今後の方向性については、現在、本学院内部での検討にとどまらず、法人本部においても学院の安定経営を目標とした様々な検討が行われています。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
	4	3	2	1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

学院において、在学生の減少傾向が継続しており、支出超過となる可能性がある。

②今後の改善方策

学生の受入れ募集の改善方策に加え、事業計画の重点事業である「低学年次生に対する教育の見直し及び学生支援体制の強化による退学率削減への取組」を強化して学生生徒納付金の安定収入化を図る。

③特記事項

学生生徒納付金収入が収入の多くを占める本学院にとって学生を確保することと、きめ細かい教育・学生対応を行うことで退学者を最小限にとどめることこそが安定運営のための道であるとの認識で各種事業を展開する。

④意見・助言

なし

⑤質問

なし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

①課題

地域性もあり、教員確保が困難であるケースがある。

②今後の改善方策

法人本部とも連携して欠員補充を安定的に行う。

③特記事項

「法令遵守」について、ハラスメント防止や学生の問題行動の防止に引き続き努力する。

④意見・助言

なし

⑤質問

質問①

公立学校ではH31.1に文科省が定めた「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」により、県教委がR2.1に「県立学校の勤務時間の上限に関する方針」を示し、今年度から各学校が職員の働き方改革について、実効性のある対応に取り組んでいます。貴学におかれましては、働き方改革関連法に係る職員の勤務時間管理、衛生管理強化等の指標や目標の設定はいかがですか？

学院からの回答：

各医療系職種の学校養成所指定規則等の関係法令により、「専任教員1人の授業時間は1週あたり15時間」を標準とすることが定められており、本学院では各学科ともに概ね基準に適合しています。その他、「働き方改革関連法」に基づく対応についても、本法人の就業規則等に基づき適切な対応がなされています。今後、教職員のワークライフバランスの更なる向上にも努めて参ります。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

地域貢献、学生ボランティア、公開講座等による地域貢献など、一定の成果を上げているが改善の余地がある。

②今後の改善方策

南魚沼市、JAをはじめとした周辺団体からの各種要請への対応や、学院周辺で開催されるスポーツイベント（グルメマラソン・グルメライド）のボランティア活動の推奨を促進する。

③特記事項

18歳人口の減少、人口減少・地方衰退といった社会情勢の中で、高等教育機関として新潟県や魚沼地域に貢献できる学校となるべく検討を進める。

④意見・助言

意見①
市関連の行事・イベントへボランティアをいただいでいて感謝しています。今後もよろしくお願いします。

⑤質問

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価表の各評価項目に記載のとおり、学校運営は概ね良好であると評価できる。一方で18歳人口に伴う入学志願者の確保状況や、国家試験合格率など、対策を講じるべき課題も存在する。本学院教職員の英知を結集して対応することはもちろん、学校法人との綿密な連携を図ることで、より効果的で実効性のある対策を立案し実施していく。